

雑 録

鑛山用中空鋼の配給統制を実施—配給統制協議會設立 商工省は鑛山用中空鋼の需給狀況に鑑み今回これが配給統制を実施することとなり、10日關係官、特殊鋼協議會及び中空鋼需要者側の代表者を以て鑛山用中空鋼配給統制協議會を設立した。配給統制要綱及び委員の陣容次の通り。

鑛山用中空鋼配給統制要綱

1. 統制の範圍

- 1) 本統制は鑛業法の適用を受くる鑛山を對象とすること。
但外地需要のものに付ては朝鮮を除く外本統制を包含すること
- 2) 統制品は鑛山に於て使用する鑿岩機用中空鋼とすること。

2. 配給統制機構

イ. 需要量の調査及査定=鑛山用中空鋼配給統制協議會(以下協議會と稱す)は金屬山に付ては鑛山配給統制協議會聯合會、石炭山に付ては石炭鑛業聯合會の機關(各地方鐵鋼統制團體)を通じ全鑛山の1ヶ年及び3ヶ月毎の需要量を調査し之に査定を加へて配給量を決定すること。但し外地需要に付ては外地官廳を通じて需要を調査すること。

ロ. 供給の確保=協議會に於て査定を爲したる配給量に對し輸入品に在りては輸入爲替買入許可の保證、本邦製造品に在りては生産の確保を事前に得置くこと。

ハ. 需要者に對する割當=協議會は每期鑛山別、鑛業權者並に其の代理者別、供給割當を爲すこと。

ニ. 割當證明書の發給=協議會は前項の割當に基き鑛業權者又は其の代理者に對し中空鋼割當證明書を發給すること。

ホ. 輸入の割當=協議會は輸入業者別に前項の配給割當に相當する種類、數量及び受配者等を決定して輸入割當を行ひ輸入業者に對し輸入割當通知書を發給すること。輸入の割當は品種に關する需要者の希望、輸入資金關係、納期價格、輸入実績等を考慮してこれを定むること。

ヘ. 輸入爲替買入又は信用狀取得許可の申請=輸入業者前項の輸入割當を受けたるときは遅滞なく輸入爲替買入または信用狀取得許可申請その他の手續を執ること。申請書には協議會の發給したる輸入割當通知書を添附すること。

3. 取引の機構

イ. 發註=受配者は割當の範圍内に於て割當證明書に指定されたる相手方(原則として輸入品に在りては輸入業者、國產品に在りては製造業者)に割當證明書を添附して發註すること。

發註は每期一定の期日迄に之を爲すこととし期限を經過したるものは其の割當を無効とすること無効となりたる割當は協議會に於て適當に處理すること。

ロ. 最高價格=販賣價格に付ては輸入港(國產品に在りては製造地)に於ける發驛貨車乗渡の最高價格を設くること。最高價格は協議會に於て之を決定すること。

ハ. 仲介販賣=輸入業者の代理店又は製造業者の代理店に發註すること差支なし、此の場合の口錢は内口錢とし輸入業者又は製造業者の負擔とすること。

ニ. 代金の決済=代金は引換拂とすること。但し當事者間に特別の取極を爲したるときはこの限に非ざること。

ホ. 現品の引渡=現品入荷したるときは輸入業者は遅滞なく受配者に現品の引渡をなすこと。現品の引渡は協議會の指定したる受配者以外に之を爲すことを得ざること。但し特別の事由に依り協議會の承認を得たる場合は此の限に非ざること。

4. 割當證明書及び割當に依り引渡を受けたる現品の譲渡は之を認めざること。但し協議會の承認を得たる場合に於ては此の限に非ざること。

5. 本統制は昭和14年1月10日より之を実施すること。

6. 本統制實施後は協議會の割當を受けたる場合に限り賣買契約を爲し(國產品の場合)又は輸入爲替許可の申請を爲し(輸入品の場合)得ること。但し統制實施前に既に賣買契約を爲し又は輸入爲替の許可を受けたるものに付ては現品の引渡又は入荷の日時が統制實施後なる場合に於ても直接には統制の對象と爲らざること。

○配給統制協議會委員 △會長 鑛山局長小金義照△委員 鑛山局鑛政課長山本茂、鑛山局鑛業課長瀬尾健二、鑛山局産金課長山本茂臨時物資調整局第一部第二課長山本茂、臨時物資調整局第二部第三課長大橋謙一、拓務省殖産局物資調整課長渡部肆郎、特殊鋼協議會專務理事小野徳三郎、鑛山配給統制協議會聯合會會長七瀬善吉、石炭鑛業聯合會常務理事茂野吉之助 (東京中外 1月11日)

輸出製品用銅地金配給新規定を制定 輸出品製造用の原材料たる銅、亜鉛、錫の配給は從來日本銅統制組合、日本鉛亜鉛アンチモン統制組合及び錫統制組合に於て相互の連絡の下に行て居たが、今回既報の銅、鉛、錫等配給統制規則(商工省令)の施行に伴ひ、これが配給手續の一部に對し變更の必要を生じ「日本銅統制組合」は「輸出製品用銅地金配給規定」を制定の上本月以降は次の規定に基き輸出品製造用原材料の配給に當ることとなつた。而して從來の銅地金の配給方法と相違する點は、

1. 輸出製品用の銅地金から伸銅を作り、これを材料として輸出品を製造する場合には、前記省令によると輸出品製造業者は統制組合から直接に銅地金の配給を受けることが出來ないので、輸出品製造業者は統制組合から配給割當の承認を経て該承認書を伸銅業者に渡して伸銅業者が銅地金の配給を受け、板、管、棒、線等の半製品として輸出品製造業者に渡すこととした。

1. この場合輸出品製造業者の手許で生じた銅屑についてはそのまゝ伸銅業者で再生すべきであるが省令はこの兩者間の直接取引も禁止してゐるため、一旦組合がそれを買上げて伸銅業者に配給の上再び輸出品製造業者の手許に戻る方法とした。

第一條 商工省令銅、鉛、錫等配給統制規則に基き日本銅統制組合(以下單に統制組合と稱す)の輸出製品用銅地金(私設保税工場用のものを除く)の配給は本規定に依り之を行ふものとす

第二條 本規定に基き配給すべき地金の種類は次記に限る
電氣銅並に故銅(銅又は黃銅の屑又は故)但し1號銅線屑を原則とするものとす

第三條 銅若は銅合金(黃銅、青銅、其の他銅基合金と認むるもの)又は之等の製品(板、管、棒、線等)を原料とする輸出品の製造業者は別紙様式第一號による輸出製品用銅地金配給割當承認願(以下單に配給割當承認願と稱す)を統制組合(但し大阪府下

の輸出品製造業者に在りては所謂經濟部(特別府縣經濟部)宛に提出すべし

前項の配給割當承認願は原則として1月分の所要量を工業組合又は其の聯合會其の他の團體毎に取纏め一括して提出すべし、但し以上の各團體に所屬するに至らざる者に在りては單獨に提出する事を得るものとす。

(備考) 特別府縣經濟部は現在の處大阪府のみなるも必要に應じ追加せらるゝことあるものとす

第四條 二府縣以上を地區とする工業組合は其の聯合會及前條第一項に定められたる府縣に所在する工業組合又は其の聯合會にして商工省臨時物資調整局に於て特に指定したるものに在りては直接統制組合宛配給割當承認願を提出することを得るものとす

第五條 第三條第一項に規定したる特別府縣經濟部又は統制組合は配給割當承認願を受理したるときは之を商工省臨時物資調整局に提出し、其承認を受けたる地金の種類及數量を記載せる輸出製品用原材料割當證(以下單に割當證と稱す)を配給割當承認願の提出者に交付するものとす

特別府縣經濟部は前項の規定により割當證を交付したるときは其の寫を統制組合に送付するものとす

(備考) 臨時物資調整局に於ける割當承認願の審査は原則として毎月15日及び月末の2回に行はるゝものとす

第六條 前條割當證の交付を受けたる者にして統制組合より配給すべき地金を直接自工場に於て使用する者(以下單に直接需要者と稱す)は割當證を添附して別紙様式第二號に依る配給申込をなすものとす

前條の割當證の交付を受けたる者にして統制組合より配給すべき地金を直接使用せざるもの(以下單に間接需要者と稱す)は其の直接必要とする銅又は銅合金製品の製造業者(伸銅業者、電線製造業者等)との間に割當證と引換に銅又は銅合金製品を買受くべき条件を取極めたる上當該製造業者に割當證を譲渡すべし
前項の規定により割當證の譲渡を受けたる者は之を添附し統制組合に別紙様式第三號に依る配給申込をなすものとす

第七條 割當證の交付を受けたる間接需要者にして割當證を他人に譲渡するため必要あるときは之を特別府縣經濟部又は統制組合に提出し割當證記載數量の範圍内に於て分割書換を申請する事を得るものとす

第八條 統制組合は第六條第一項又は第三項の規定による配給申込を受理したるときは速に賣約書を發行するものとす

第九條 統制組合より賣約書を受取りたる者は折返し買約書を統制組合宛に送付し同時に代金の支拂を爲すものとす

第十條 統制組合は買約書の送付を受け且代金を受領したるときは直ちに買約申込人に荷渡指圖書を發行するものとす

第十一條 統制組合の賣渡価格は總て組合の指定したる倉庫渡しの場合とす。但し引渡數量は送狀面(インボイス)に依るものとす

第十二條 買約申込人は荷渡指圖書と引換に荷渡指圖書記載の引渡人より其の置場において現品の引渡しを受くるものとす

第十三條 間接需要者は割當證又は第十四條第二項の規定に依り取得したる銅又は銅合金製品の使用に因り生じたる銅又は銅合金の屑を統制組合又は其の指定したる故銅買入業者に賣却することを要するものとす

直接需要者は統制組合より配給したる地金の使用により生じたる銅又は銅合金屑は之を輸出品の製造用に反覆使用する事を得るも

のとす

第一項の規定による銅又は銅合金の屑の賣渡申込は工業組合若くは其聯合會其の他の團體毎に之をなすことを要するものとす但し以上の團體に所屬するに至らざる者にありては單獨に賣渡申込をなすことを得るものとす

前項の賣渡申込書は別紙様式第四號に依る(様式省略)

第十四條 統制組合は前條の賣渡申込を受けたるときは原則として間接需要者又はその團體の置場において買受くるものとす

統制組合は前項の規定に依り買受けたる銅又は銅合金の屑を賣渡人の希望あるときはその希望する伸銅業者、電線製造業者等に對し之を賣渡人の輸出品製造に必要な銅又は銅合金製品の製造用原料に充つべき旨の條件を付して前項の置場に於いて賣却するものとす

第十五條 輸出品製造業者は製品の船積完了する迄毎月10日迄にその前月分に付別紙様式第五號に依る報告書を統制組合に提出することを要するものとす但し第五條の規定に依り特別府縣經濟部より割當證の交付を受けたる輸出品製造業者は特別府縣經濟部所定の報告書を當該府縣經濟部宛提出することを要するものとす

第十六條 輸出品の製造業者にして統制組合より配給すべき地金に配合すべき亜鉛又は錫を必要とする場合に於ては第三條の規定に準じて亜鉛又は錫の配給割當承認願を第三條の輸出品製造用銅地金割當承認願と併せて提出することを得るものとす此の場合に在りては特別府縣經濟部又は統制組合は第五條の規定に準じて銅地金割當證に併せて亜鉛又は錫の割當證を交付するものとす

特別府縣經濟部又は統制組合は前項後段の規定により亜鉛又は錫の割當證を交付したるときは其の寫しを夫々日本鉛亜鉛アンチモン統制組合又は錫統制組合に送付するものとす(凡て手續様式類は省略す)
(東京中外 12月11日)

鐵鋼増産に日滿支相呼應し着々進む 鐵鋼業は基幹國防産業の一でありその生産力擴充の急務なる所以については今更吹々を要しない。日滿支經濟ブロック建設の中心事業として鐵鋼の増産、自給達成は東亞産業文化の礎石を築くものであり、しかも當面日本の軍事力を強化するための主要な手段でもある。すでに準戰時體制以來、日滿鐵鋼業者は増産計畫を樹立し、或ひはそれをスピード・アップしてゐるが、今や戰時下における軍需集中に伴ひ鐵鋼需給關係は逼迫を來し全面的民需使用制限を強權によつて行はれるに至つた。換言すれば我が鐵鋼業は原料的基礎の薄弱な點と銑鋼一貫作業の著しい立遅れに基く脆弱性を暴露して却て鐵鋼生産力擴充の要請を益す高める結果を招いたのである。

昭和12年、林内閣當時伍堂商相によつて鐵鋼増産計畫が樹立されたがそれは昭和12年から16年末の5ヶ年間に日滿を通じて鋼材 6,200,000t 生産を目標とするものである。この伍堂プランは需要増加豫想の過少見積り、鐵鋼輸出に對する消極主義の點等世間の非難を招きつひに流産した。代つて近衛内閣の吉野商相によつて昭和16年末まで日滿を通じて鋼材 10,000,000t 生産を目標としたプランを樹立した。その後これを基礎に日滿支を含むブロック的新鐵鋼増産計畫を樹立することになり昨年3月商工省、對滿事務局、企畫院、陸海軍等關係官廳の手で新增産案が決定された。

民間業者は自治的最高政策審議機關である鐵鋼聯盟において特別委員會を設置し日滿双方の生産力擴充の調整並に増産計畫の促進を圖らうとしてゐる。ところで政府の増産計畫案に呼應して民間各鐵

鋼會社はいかに擴張計畫の實現を急ぎつゝあるか、日本製鐵まづ日本最大の國策的鐵鋼會社である日本製鐵では既定の第1次から第4次までの計畫をスピード・アップし、すでに第2次計畫は釜石製鐵所 700t 爐 1 基の舊臘22日竣工火入れによつて全部完成した。本年は次の計畫實現に主力を専ら注ぐことになった。

第3次計畫 (1) 輪西製鐵所増設 700t 熔鑄爐 3 基、平爐 120t 爐 6 基 (製銑 700,000t、鋼塊製造 500,000t)、16年末完成の豫定が遅れて17年3月頃完成の豫定、所要資金 130,000,000 圓 (1) 八幡製鐵所ストリップ・ミル (鉄力板製造工場) 本年6月頃完成の見込。

第4次計畫 廣畑製鐵所新設 1,000t 爐 2 基、平爐 120t 爐 6 基 (年産製銑 700,000t 鋼塊製造 500,000t 鋼材 400,000t 能力) 熔鑄爐 1 基は16年6月、他の1基は同年8月完成の豫定、所要資金 170,000,000 圓。

第5次計畫 更に昨年第5次計畫を樹立したが當面實現を決定したものは清津製鐵所の新設である。此の原料は茂山鐵鑛工場敷地はすでに買収し愈々今春早々熔鑄爐 500t 爐 2 基の建設工事に取掛ることになった。之は昭和17年3月頃完成の豫定、所要資金 50,000,000 圓である。

かくて以上の増産計畫完成後における日本製鐵の全生産能力は製鐵合同當時の約2倍で銑鐵年産 5,100,000t、鋼塊 4,400,000t、これに要する鑛石消費量約 12,000,000t である。だがこのほか第5次計畫として内定したものは次の通りである。

銑 鐵	八 幡 製 鐵	1,000t 爐 1 基	
	輪 西 製 鐵	700t 爐 1 基	
	廣 畑 製 鐵	1,000t 爐 1 基増設	
鋼 塊	平 爐	混 銑 爐	製 鋼 能 力
八 幡	120t 5 基	300t 1 基	500,000t
輪 西	120t 3 基	300t 1 基	300,000t
廣 畑	120t 3 基	300t 1 基	300,000t
計	11 基	3 基	1,100,000t

以上全部が完成すれば日鐵の生産能力は大體銑鐵 6,050,000t、鋼塊 5,490,000t、鋼材 4,520,000t に増大する。また之に伴ふ鑛石資源の確保は日鐵資源會社の設立、大冶鐵山、華中鐵鑛公司、北支鐵鑛、茂山鐵鑛、更に南洋比島方面に觸手を伸ばしてゐる。

盟外各社アウトサイダーでは日本鋼管が大擴張をなし、すでに500,000tの製銑能力を具備してゐるが目下第4熔鑄爐 600t 1 基の建設中で更に同社の計畫では第5、第6各々 700t 熔鑄爐建設を企畫してゐる。これが昭和17年に完成すれば年 1,900,000t の銑鐵生産能力を確保し鋼材設備も少くとも現在の倍 1,500,000t 程度に擴張する計畫である。

小倉製鋼は近々第1熔鑄爐 (250t) の火入れの豫定であり更に第2熔鑄爐 (250t) 建設認可を得て目下工事を急いでゐる。尼崎製鋼も尼崎製鐵と合併、認可済の第1高爐 (250t) の建設を急ぎつゝあり、完成の上は第2高爐の建設に移るはずである。その他中山製鋼大谷製鋼等熔鑄爐建設計畫をもつてゐる。

滿洲國 滿洲國では産業5ヶ年計畫の一部として鐵鋼増産計畫が樹立されたがこれも支那事變の進展によつて飛躍的修正が加へられた。昭和16年末、銑鐵 5,000,000t、鋼塊 3,500,000t、鋼材 2,000,000t 目標に擴大された。

即ち昭和製鋼所では第3、第4兩次計畫を昭和15年3月まで繰上げ 700t 3 基を建設、17年春までに第5、第6次の増産計畫を遂行し完成後銑鐵年産 4,500,000t、内 1,000,000t 内地輸入とし原料は凡て地元で賄ふ方針で貧鑛處理年約 14,200,000t に達する、また本溪瀋煤鐵公司も5ヶ年後には現在の 150,000t 出銑能力を 1,000,000t

に擴張する方針である。

支那 支那においては昨年11月石景山製鐵所 (250t 熔鑄爐 1 基) の火入れを行つたがこれを土臺に北支開發會社の子會社として北支製鐵會社の設立計畫があるが未だ具體化してゐない。傳へられるところでは龍烟鐵鑛を中心とし天津附近に年産 500,000t の製鐵所を建設一貫作業を行はしめ、前記石景山並に西北實業鍊鋼廠 (150t 爐 1 基) 保普鐵廠 (20t 爐 1 基) の復活と共に合計 500,000t の鋼材を銑鋼一貫作業で製造する方針である。

かくて日滿支鐵鋼生産力擴張計畫はすでに大部分實施されつゝあるが當面之に伴ふ困難は相當大きい。第1は技術者並に熟練労働者の不足である。第2は建設に要する資材が自家用鐵鋼使用が昨年7月以來4割減少されたため供給不足であり、また國際收支上壓延施設高爐附屬施設資材の輸入が極めて窮乏な點である。だが内地生産力擴張の根幹をなす日鐵では規定計畫の分については凡て資材の手當を完了したと稱してゐる。生産力擴充計畫完成の上はひとり東亞興隆に役立つのみならず、日本は一大輸出國たることを約束されてゐる。

(讀賣 1月9日)

全體主義國家の鐵鋼生産は漸増 1938 年の世界鐵鋼界は概して不振であつたが、年末近くになつて市況稍々見直しに轉じたと云へよう。しかし全體主義國の鐵鋼生産は依然増加の一途を辿つた

主要國の生産比較 先づ世界主要國の鐵鋼生産高を國際聯盟の調査によつて比較して見るとアメリカ、イギリス、フランス等の本年における鐵鋼月別生産高は昨年比べて著しく減少これに反してドイツ、イタリア、日本等の生産は何れも昨年の記録的生産を更に上廻るに致つた。

即ち、アメリカの鐵鋼月別生産高は昨年には 1929 年以來の生産高を示したが、1938 年には鋼鐵、銑鐵何れも 37 年の生産高を遙かに下廻り、年末に至て漸く回復を示した。イギリスでは 1937 年の月産高は鋼鐵、銑鐵何れも 1929 年の生産高を突破したが、本年においては4月以降減退に轉じ 10 月の數字を除き 6、7、8、9 月の鋼生産高は 1929 年の數字を逆に下廻つた。銑鐵の生産高も 6 月以降ずつと 1929 年の月平均より少かつた。フランスの生産高は 1937 年においてすら 1929 年の生産高を抜きえず、38 年の各月は漸減して 1929 年の月産高に比べると半減近くの慘めきである。

これに反しドイツの生産高は 1937 年において銑鋼何れも 1929 年の數字を上廻り、本年の月産高は昨年の生産を更に突破し、この結果本年 5、6 月における鋼鐵の生産高はアメリカをも凌駕して世界第1位を占めるに致つた。銑鐵の生産高に到ては 1 月以降 7 月までアメリカの生産高より多かつた。イタリーの生産高も本年に到て 1929 年の生産を突破した。更にアメリカ及ヨーロッパ鐵鋼界を市況中心に顧みよう。

不振の米國 本年のアメリカ鐵鋼界に年初の製鋼業作業率僅かに 19.2% といふ低率を見てもいかに不振に始まつたかどわかるであらう、しかし製鋼作業率の減退にも拘らず 5 月までの鐵鋼価格は依然として高値が維持された。しかしこの鐵鋼高値維持政策はアメリカ景氣の不振打開、特に建築方面の回復上大きな支障を與へてゐるといふ非難が昂まりルーズヴェルト大統領は 7 月を期してアメリカ全國に互り鐵鋼の價格及び業界一般の情勢調査に乗出す氣勢を配したところが機運から鐵鋼各社は 6 月に致つて一齊に値下げを斷行したしかし製鋼會社は値下げに當り従來任向地別に値鞘を設けて所謂ブライス・ベーンシク・ポイントを廢し各地方に互り群小會社と賣込みの競争を行ふことになった。かゝる賣値の引下げは下期における

米國景氣の見直と相俟つてアメリカ鐵鋼界、特に製鋼業を改善せしめ、7月以降漸増して11月には62.6%迄回復した。

製鋼作業率の回復は當然屑鋼の市況にも反映し、6月にt當り僅かに11ドルの安値に崩落したピツツパグ渡し1級屑鋼相場にその後漸騰、年末には15ドル臺まで回復した。一方輸出方面は銑鋼、屑鋼何れも減少著しかつた。なほ本年における米國製鋼作業率の推移は次の通り。(全能力の)(次記日附に終る1週間)

	最高	最低		最高	最低
1937年	92.3%	23.5%			
1938年(5月1日)		(12月25日)	(5月1日)	(12月25日)	
1月	32.7%	19.2%	2月	31.0%	50.4%
3月	33.7%	29.3%	4月	35.7%	32.0%
5月	30.7%	29.0%	6月	28.0%	26.1%
7月	37.0%	22.4%	8月	42.8%	39.4%
9月	47.3%	39.9%	10月	53.7%	46.7%
11月	62.6%	56.8%	12月	60.7%	51.7%

北支の鐵鑛開發 終りに東洋方面であるが、日本の鐵鋼業が昨年比し更に一段の躍進を示したのは別として支那における鐵鋼業が日本の手によつて着々更生されるに至つたのは注目される。即ち北支においては埋藏量120,000,000tと云はれるチャハル省龍烟鐵鑛の開發に着手その他現在稼行中の石景山製鐵所、西北實業鐵鋼廠、保普鐵廠等についても増産を期し、中支においては我が日鐵を主體とする華中鐵鑛会社が設立され、安徽省大平山鐵鑛の復舊に着手、更に100,000,000t餘の埋藏量を有する大冶鐵山の更生も進められることとなつた。

なほ濠洲では鐵鑛の對日輸出を禁止し、佛領印度支那では海防の

北方400kmのドンピイに250t熔鑛爐4基の創設を進めて西南支への鐵輸出を企圖したが、比島ではスリガオ山脈の鐵鑛開發を計畫して日本への輸出打診を試みる等、日本を繞る英佛資本各國區々の態度を示したことは一般の興味をそゝつた。

(大阪事時 12月21日)

日鐵釜石製鐵所700t爐火入式舉行 日鐵では戰時鐵鋼國策の重要性に鑑みききに第3次以下第5次増産計畫を樹立目下鋭意建築擴張の手を進めてゐるがその一部である釜石製鐵所の700t熔鑛爐1基がこのほど完成するに至つたので21日火入式を舉行した。

(大毎 12月23日)

壽重工業の熔鑛爐火入式 産業建設に基本的な資材となる銑鐵12,000,000tを目標に増産計畫に鋭意邁進しつゝあるわが鐵鋼業のうち府下泉北郡大津町の築港附近に昨年6月以來熔鑛爐の建設を急いでゐた壽重工業株式會社(社長市田健次郎氏)では興亞新春を迎へてうち1基が竣工したので15日午後3時から晴れの火入式を舉行した。これは70t熔鑛爐で規模において近く竣工することになつてゐる。中山製鋼所の300t熔鑛爐に比し小さいが關西における民間の熔鑛爐としては最初のもの。

(大毎 1月11日)

鐵鋼輸入税の全免期間延長 銑鐵鋼材並に半製品の輸入に關しては、昭和12年法律第57號(鐵の輸入税免除に關する件)によつて同7月以降2ケ年間その輸入税が免除されることとなつてゐるが大藏省では同法施行期間が今年6月をもつて満了するので實施期間を更に2ケ年間延長すべく之に伴ふ改正法律案を今議會に提出する意向でこれに先立ち今月末同省に開催の關稅調査會において協議の上正式に態度を決定するはずである。

(大毎 12月19日)

鐵屑會社の集荷不振に對策 昨年12月以來熔解用鋼屑の一手配給の衝に當つてゐる鐵屑統制會社の集荷狀況は頗る不振で、1月の供給割當4萬餘tの完納はおろか、12月割當の8萬tまでが未だに多量の未引渡しを残して居りこの分では2月分の新規割當は全く不可能におはることなきやを憂慮されてゐるが、商工省では鐵鋼生産計畫に對する原料の供給確保の見地からこの事態を頗る重視し、この程鐵屑會社首腦部を招致して速かに有效なる對策の考究實施を嚴命するにいたつた。元來冬期殊に正月は季節的に屑の出廻り不良の時期に屬するが最近の集荷不振の特殊原因としては、

(イ)屑發生元、即ち供給者側において公定價格の引上げを見越して賣り惜しみの事實あること。

(ロ)公定價格以上の高値で買ひつける需要家との間に統制會社を経ずして直接關取引の行はれてゐること。

(ハ)製鋼業者その他發生屑の一部を從來外賣しつゝあつた者が、自家使用に振り向ける事實の多いこと。

(ニ)統制會社指定商のクォーター決定が現在の集荷實力に即せざるため一種のサボタージユ状態を現出してゐること等々の原因の伏在せる事實を看過できない、商工省としては右につき(イ)の公定價格引上げの如きは絶對に行ふ意思なく、(ロ)などの如き法令違反

に對しては斷乎經濟警察の摘發處分の敢行を要求することに決したが、會社側でも既に直營集荷所の設置等の對策を講ずる一方當局と協力積極的に集荷促進の具體策を練りつゝあるので、成案を注視されてゐる。(東京金物新報 1月28日)

セメント窯製銑近況 セメント會社の遊休窯による銑鐵の試驗生産は大坂窯業、秩父セメント、淺野セメント3社ともに成績良好で、近く本格的操業開始の運びにあるが、製品の處分方法を一任されてゐる商工省では日滿鐵鋼販賣會社をして買取販賣を行はせることに方針を決定、差しあたり3社がストックしてゐる今日までの試験製品約1,500tにつきこれを実施せしむべく賣渡値段の査定資料としてこの程3社に生産原價調べの提出を求めたが目下の觀測では120~130圓程度に落ちつく模様である、而して日滿鐵鋼では右の買取に關し先づ秩父セメントとの具體的交渉を進めてゐるが、買取品の配給には同社の既存指定商指定問屋を経由することに方針を定めてゐるが、問題は製品の品質が現在迄のところでは隣、硫黃等の不純分極めて低く珪素も少ない關係よりすれば製鋼用銑としては勿體ない程に優秀ではあるがたゞ銅分の多いことに缺點を藏しこの銅分の除去が技術的に成功をみるまでは用途が極く制限されて來るので向先に關し慎重研究が重ねられてゐる。(東京金物新報 1月28日)

內外最近刊行誌參考記事目次

Stahl und Eisen, 22 September, 1938.

Einfluss verschiedener Schlackenbildner auf den Flüssigkeitsgrad der Hochofenschlacke, F. Hartmann, s. 1,029-1,034.

Kostenvergleich verschiedener Verfahren zur Erzeugung von Spülluft bei Gasmaschinen, W. A. Güldner, s. 1,034-1,037.

Entwicklungslinien der amerikanischen Eisen- und Stahlindustrie, s. 1,038-1,042.

29 September, 1938.

Die Entwicklung der hochfesten Stähle für der Grossstahlbau, P. Hoff, s. 1,053-1,057.

Vom Ursprung und Werden der Buderus'schen Eisenwerke, Wetzlar, s. 1,057-1,060.

6 Oktober, 1938.

Die neuere Entwicklung auf dem Gebiete der feuerfesten Sondersteine, F. Harders, s. 1,081-1,085.

Die Stahlröhren-Winderhitzer auf der Pilsudskihütte in Chorzów (Königshütte), W. Kuczewski, s. 1,086-1,089.

13 Oktober, 1938.

Eisenerzverhüttung in der Schweiz, R. Durrer, s. 1,105-1,106.

Das Verhalten verschiedener Schwefelsäuren in der Bandstahlbeizerei, W. Ufer u. A. Döring, s. 1,107-1,111.

Wachsen von Gusseisen für Kolbenringe bei Temperaturen bis 700°F. Bollenrath u. K. Bungardt, s. 1,111-1,113.

20 Oktober, 1938.

Die Schienenbruch-Statistik der Deutschen Reichsbahn, V. Herwig, s. 1,129-1,137.

Beurteilung des Ablaufes des Frischens in der Thomasbirne mit Hilfe der Abgasanalyse, R. Frerich, s. 1,138-1,143.

3 November, 1938.

Einige Aufgaben der deutschen Metallurgie, ihre nationale und internationale Bedeutung, E. Houdremont, s. 1,185-1,199.

Kopfleistung und Arbeitsplanung, K. Rummel, s. 1,200-1,212.

Beiträge zur Entschwefelung des Roheisens, W. Oelsen, s. 1,212-1,217.

Die Ausbildung des Primärgefüges bei nichtrostenden Chromstählen, H. Siegel, s. 1,218-1,225.

Bau und Betrieb der ersten deutschen Breitbandanlage, F. Winterhoff, s. 1,225-1,238.

Der Einfluss von Legierungszusätzen auf die Beständigkeit von Stahl gegen Wasserstoff unter hohem Druck, F. K. Naumann, s. 1,239-1,250.

Der Welthandel in Eisen und Stahl seit dem Jahre 1938, J. W. Reichert, s. 1,251-1,255.

10 November, 1938.

Neue Bauweisen im Walzwerksbau, K. Rosenbaum, s. 1,281-1,292.

Die Desoxydation des Thomasstahles mit Thomasroheisen, O. Scheiblich, s. 1,293-1,297.

17 November, 1938.

Nutzbarmachung von Gichtgas zum Brennen von Hochofen und Stahlwerkskalk, K. Guthmann, s. 1,305-1,317.

Verzundern und Entkohlen unlegierter Stähle, G. Bandel, s. 1,317-1,326.

24 November, 1938.

Zweckmässiges Beizen von Stahl, P. Dickens, s. 1,343-1,346.

Blast Furnace and Steel Plant, Oct., 1938.

Control of Open Hearth Slags? O. H. Super, p.p. 991-994.

Development of the Open Hearth Process in the United States, L. F. Reinartz, p.p. 995-999.

American Hot Dip Galvanizing Practice, W. G. Imhoff, p.p. 1,000-1,007.

The Development of Continuous Strip Mills, D. Eppelscheimer, p.p. 1,008-1,011.

Recent Developments in Steam Boilers, M. Lorain, p.p. 1,014-1,015.

The Development of the Continuous Rolling of Sheet and Tinplate, J. Malborn, p.p. 1,017-1,019.

Iron Age, Sep. 15, 1938.

Holding and Supporting Assemblies in Electric-Furnace Brazing—1. H. M. Webber, p.p. 30-33.

Modern Flat Rubber Belting Drives, F. Juraschek, p.p.

34-39.

Recent Advances in Heat Treating and Melting Equipment, F. J. Oliver, p.p. 40-44.

Chevrolet Crankshaft Production Almost a Continuous Cycle, J. B. Nealey, p.p. 45-47.

Press Brake for Flexible Production, C. J. Bath, p.p. 48-49.

Sep. 22, 1938.

Italian Plant Features High Frequency Furnaces, M. Kauchtschischwili, p.p. 40-44.

Utilizing Waste Pickling Acid, p. 45.

Holding and Supporting Assemblies in Electric-Furnace Brazing—2, H. M. Webber, p.p. 46-51.

Coiled Silicon Strip Steel, B. Longwell, p.p. 52-53.

Technical Papers on Vital Topics Await Convention of Iron and Steel Engineers, p.p. 54-56.

The Development of Chrysler's Superfinish—III, W. F. Sherman, p.p. 57-61.

Sep. 29, 1938.

Centralized Management of Materials Handling, E. J. Mills, p.p. 18-23.

The How and Why of V-Belt Drives, F. Juraschek, p.p. 24-28.

Composite Construction in Heavy Welded Assemblies, W. E. Hollingshead, p.p. 29-31.

Recent Design Advances in Presses and Other Sheet Metal Machinery, F. J. Oliver, p.p. 32-38.

A Look Ahead in the Abrasive Industry, H. W. Dunber, p.p. 39-41.

Oct. 6, 1938.

High-Production Machines Employed for Short-Run Work, R. E. Miller, p.p. 26-31.

Special-Purpose Machines Pre-dominate in Recent Machine Tool Designs, F. J. Oliver, p.p. 32-37.

Automatic Sizing Control for Lathes, D. R. James, p.p. 38-39.

Oct. 13, 1938.

Flame Scarfing, T. W. Lippert, p.p. 40-53.

Fundamentals of Wire Drawing, F. C. Thompson, p.p. 57-66.

Freezing of Rimmed Steel, H. D. Hibbard, p.p. 69-77.

Copper-Chromium Alloys, M. G. Corson, p.p. 78-81.

Stress Relieving and Preheating, W. G. Theisinger, p.p. 131-159.

Low-Temperature Silver Brazing Alloys, H. A. Folgner, p.p. 161-169.

Controlled Heat Dissipation, J. G. Coutant, p.p. 247-254.

Perchloric Acid, C. Morris Johnson, p.p. 255-260.

Oct. 20, 1938.

Welding is the Heat of Le Tourneau Production Set-up, A. F. Davis, p.p. 18-21.

Stress Relieving and Preheating, W. G. Theisinger, p.p. 22-25.

Copper-Chromium Alloys, M. G. Corson, p.p. 25-28.

Recent Design Advances in Cutters, Small Tools and Inspection Equipment, F. J. Oliver, p.p. 30-35.

Elevated Highway Described as Vast Future Outlet for Structural Steel, T. C. Campbell, p.p. 36-37.

Oct. 27, 1938.

Year's Progress Interpreted by A. S. M., p.p. 29-35.

Theoretical Research Features A. J. M. E. Program, p.p. 40-41.

Broad Economic Problems the Chief Concern of Machine Tool Builders at Hot Springs, p.p. 42-45.

The Cone Worm Gear in Actual Use, p.p. 46-49.

Nov. 3, 1938.

Electric-Furnace Brazing, H. M. Webber, p.p. 30-35.

The Key to Handling Economics, C. H. Barker, p.p. 36-39.

Fundamental Engineering Data for Pulley Selection, F. Juraschek, p.p. 40-44.

Recent Designs of Motors, Controllers and Industrial Lighting Equipment, F. J. Oliver, p.p. 45-49.

Nov. 10, 1938.

Good Lighting, R. W. Chamberlain, p.p. 40-43.

Limiting Creep of Furnace-Brazing Metals, H. M. Webber, p.p. 44-46.

Cross-Bay Crane Handling Eliminated at New Cimatool Plant, W. F. Sherman, p.p. 47-49.

Grinders again Predominate in Current Machine Tool Designs, F. J. Oliver, p.p. 50-55.

Nov. 17, 1938.

Character and Machine Performance of Lead Bearing

- Steels, F. J. Robbins, p.p. 28-34.
 Rolling Along on Industrial Conveyors, F. Juraschek, p.p. 35-38.
 Creep of Metals Under Static and Repeated Stresses, F. C. Lea, p.p. 39-41.
 Further Advances in Spot, Arc and Gas Welding Apparatus, F. J. Oliver, p.p. 44-49.
 Cutting Tool Action Studied by Motion Pictures, p.p. 50-51.
- Metal Industry (London), Sep. 9, 1938.**
 Metal Crystals, B. Chalmers, p.p. 243-246.
 High Purity Aluminium, C. S. Taylor, L. A. Willey, D. W. Smith and J. D. Edwards, p.p. 247-249.
 A New Water-Cooled Mould, S. F. Erichsen, p.p. 251-252.
 Industrial Electroplating Processes, S. C. Taormina, p.p. 253-257.
- (London), **Sep. 16, 1938.**
 Lead Welding or "Burning," F. E. Rogers, p.p. 267-270.
 Non-Ferrous Foundry Practice, J. Laing & R. T. Rolfe, p.p. 273-278.
- (London), **Sep. 23, 1938.**
 Increase in Metal Consumption, p.p. 291-294.
 Metal Crystals, B. Chalmers, p.p. 295-298.
 Non-Ferrous Castings, F. Dunleavy, p.p. 299-302.
 Heavy Nickel Deposits, W. A. Wesley, p.p. 303-306.
- (London), **Sep. 30, 1938.**
 Production of Metal Powders, D. O. Noel, J. D. Shaw & E. B. Gebert, p.p. 315-318.
 Age-Hardening of Castings, L. W. Kempf, p.p. 319-321.
 Metal Crystals, B. Chalmer, p.p. 323-325.
 Engineering Progress, W. R. Barclay, p.p. 327-329.
- (London), **Oct. 7, 1938.**
 The Layout of a Metal Mill, A. L. Molineux, p.p. 339-344.
 Light Metal Manufacture, R. Hamacher, p.p. 345-346.
 Sand-Cast Manganese Bronze, p.p. 347-348.
 Production of Metal Powders, D. O. Noel, J. D. Shaw & E. B. Gebert, p.p. 349-353.
- (London), **Oct. 14, 1938.**
 Age-Hardenable 5% Nickel Bronze, T. E. Kihlgren, p.p. 363-366.
 Non-Ferrous Foundry Practice, J. Laing & R. T. Rolfe, p.p. 367-369.
 Magnesium Metal, D. V. Manning, p. 370.
 Non-Magnetic Coatings on Steel, A. Brenner, p.p. 373-377.
- (London), **Oct. 21, 1938.**
 Non-Ferrous Metals at the Motor Show, p.p. 387-388.
 New application for Press Work, J. D. Jevons, p.p. 389-392.
 Mexican Lead Production, G. R. Hukill, p.p. 393-394.
 Alloys for Spring, L. L. Stott & R. W. Carson, p.p. 395-397.
 Age-Hardenable 5% Nickel Bronze, T. E. Kihlgren, p.p. 399-401.
- Metal Industry (N. Y.), Oct., 1938.**
 Manufacturing High Grade Brass and Bronze Valves and Fittings, F. A. Westbrook, p.p. 469-471.
 Methods of Joining Copper Alloy Products, Conclusion: Sheets, I. T. Hook, p.p. 472-474.
 New Method of Plating on Aluminium, W. J. Travers, p.p. 475-477.
 Depositing Uniform Thickness of Metal for Plating to Specifications, J. Haas, p.p. 478-480.
- (N. Y.), **Nov., 1938.**
 Increased Paint Efficiency by Improved Spraying Technique, W. G. Sheane, p.p. 511-512.
 A New White Brass Plating Process, F. Oplinger, p.p. 513-516.
 Soft Solders, A. H. Falk, p.p. 517-518.
- Foundry, Oct., 1938.**
 Duplexing Malleable Cast Iron, G. A. Schumacher, p.p. 22-24.
 Ventilation Solves Foundry Problem, E. Bremer, p. 25.
 Patterns must be Good, V. Reid, p.p. 26-28.
 Core making in the Brass Foundry, N. K. B. Patch, p. 29.
 Progress in Automotive Steel Castings, R. H. McCarroll, p.p. 30-31.
 Trains Run on Chilled Car Wheels, P. Dwyer, p.p. 32-34.
- **Nov., 1938.**
 System Reduces Time and Labor, P. Dwyer, p.p. 22-24.
 Install that New Equipment, A. J. Tuscany, p. 25.
- Zeitschrift für Metallkunde, September, 1938.**
 Das System Kobalt-Mangan-Aluminium, W. Köster u. E. Gebhardt, s. 281-286.
- Die magnetischen Eigenschaften der Kobalt-Mangan-Aluminium-Legierungen, W. Köster u. E. Gebhardt, s. 286-290.
 Das System Nickel-Mangan-Aluminium, W. Köster u. E. Gebhardt, s. 291-293.
 Das System Mangan-Aluminium, W. Köster u. E. Gebhardt, s. 294-296.
 Röntgenographische Bestimmungen der zeitlichen Aenderung des Eigenspannungszustandes bei Biegebeanspruchung, F. Gisen u. R. Glocker, s. 297-298.
 Plastizität und Mosaikstruktur der Kristalle, A. Kochendörfer, s. 299-305.
 Anordnungen zur Messung der Thermokraft für metallkundliche Untersuchungen, A. Durer, s. 306-310.
 Beitrag zur Frage der Kalt- und Warmaushärtung auf Grund thermoelektrischer Untersuchungen, A. Duer u. W. Köster, s. 311-319.
 Ueber die Aushärtung von Aluminium-Magnesium-Zink-Legierungen und die Rückbildung der Kaltaushärtung, W. Köster u. K. Kam, s. 320-322.
 Ueber die Abnahme der mechanischen Kompressibilität der Metalle bei der Legierungsbildung, F. Weibke, s. 322-324.
 Ueber eine Beziehung der Schmelzwärmen intermetallischer Verbindungen zu den Schmelztemperaturen und über die Berechnung der Bildungs- bzw. Mischungswärmen, O. Kubaschewski u. F. Weibke, s. 325-326.
 Die magnetische Suszeptibilität der Systeme des Zinks mit Nickel, Kobalt und Eisen, Schramm, s. 327-334.
 Der Teilbereich Mg-MgCd₂-Mg₅Tl₂ des Dreistoffsystems Magnesium-Kadmium-Thallium, W. Köster u. E. Wagner, s. 335-338.
 Der Teilbereich Mg-Al₃Mg₄-Mg₅Tl₂ des Dreistoffsystems Magnesium-Aluminium-Thallium, W. Köster u. E. Wagner, s. 338-342.
 Ein Gerät zur unmittelbaren Dämpfungsanzeige, F. Förster u. H. Breitfeld, s. 343-344.
 Die Aenderung von Elastizitätsmodul und Dämpfung bei der Verformung und Rekristallisation von Messing, W. Köster u. K. Rosenthal, s. 345-348.
 Die Systeme des Kobalts mit Bor, Arsen, Zirkon, Niob und Tantal, W. Köster u. W. Mulfinger, s. 348-350.
 Die Kobaltecke des Systems Eisen-Kobalt-Vanadin, W. Köster u. K. Lang, s. 350-352.
 Das Dreistoffsystem Kobalt-Mangan-Kupfer, W. Köster u. E. Wagner, s. 352-353.
- **Oktober, 1938.**
 Untersuchungen über die Korrosionsermüdung von Aluminium- und Magnesium-Knetlegierungen, F. Bollenrath u. K. Bungardt, s. 357-359.
 Das Hebelgesetz der heterogenen Gleichgewichte in graphischer Darstellung, R. Bertschinger, s. 360-366.
 Untersuchungen über die Oberflächenveredelung von Metallen durch Diffusion, W. Seith, s. 366-372.

探鑛冶金月報 第16年 第11號 昭和13年11月

○鋼沈澱用鐵屑代用品としての紫鑛利用海綿鐵

に就て(II) 小島 鎮雄 (255)

エンヂニヤリング 第26卷 第12號 昭和13年12月

○大型鑛鐵製品ガス熔接としての機關車シリン

ダガス熔接修理 瀬戸 正二 (511)

○起重機及び起重機軌道の鋼構造部分の設計基

準(DIN 120)並にその註釋(2) 橋本 清 (519)

神鋼 第2卷 第8號 昭和13年11月

○デュラルミン系 Al合金の押出前後に於ける

加工がその機械的性質及組織に及ぼす影響

(第1報) 若本洋之助

製鐵研究 第162號 昭和13年10月

○鑛滓綿其の他各種工業用斷熱材料の比較研究

田所 芳秋 小田二郎 (19)

中島研究報告 第3卷 第10號 昭和13年12月

○大洲田鋼の窒化に關する研究(其の3)

高 Ni 高 Cr 含有大洲田鋼の窒化と窒化箱の材

- 質との關係 大坪 龍夫 (213)
- カドミウム基軸承合金の研究(第4報)
潤滑油に対する腐蝕と實用運轉試驗の結果に就て 渡邊 榮 (221)
- 採鑛冶金月報** 第16年 第12報 昭和13年12月
- 石原産業の内外鑛山概況 新田 豊造 (279)
- 金屬** 第9卷 第1號 昭和14年1月
- 機械材料加工の現状 山ノ内 弘 (3)
- 鋼材の焼減りを如何にして減ずるか 海野 三郎 (21)
- 鑄物のプロホール 楠瀬 四郎 (27)
- 金屬腐蝕の新理論“Poren Theorie” 多賀谷正義 (37)
- 時局下に於ける金屬防蝕の研究の意義と其の方針 山本 洋一 (47)
- 被覆電極棒と其の熔着鋼の不均一性に就て 大西 巖 (58)
- 外務省通商局日報** 第295號
- 第5次獨阿通商協定締結 (1500)
- 日本金屬學會誌** 第2卷 第12號 昭和13年12月
- 洋銀の高温度に於ける異常性に就て(第1報) 田丸莞爾 外2名 (579)
- Cu-Fe合金に現はれる二液相に就て 岩瀬 慶三 外2名 (584)
- 蒼鉛—錫系平衡状態圖に就て 佐藤知雄 松橋徳次郎 (592)
- 銅を主成分とする銅, アルミニウム, 鐵三元系合金の平衡状態圖 西村 秀雄 久垣 中陽 (597)
- 種々の鋼の彈性係數に就て 山田良之助 岩佐 豊藏 (604)
- 電熱線の性能に及ぼす諸因子に就て 江塚 保 (603)
- ニッケル—珪素系の β_1 相に就て 楠本 健次 (617)
- シルジン青銅の焼鈍脆性に就て(1) 黒田 三郎 (619)
- 鑄物** 第10卷 第12號 昭和13年12月
- 金屬の收縮に就て第1報(1) 谷村 照 三ヶ島秀雄 (731)
- 鑄物工徒弟に關する調査結果 山口 貫一 (748)
- 研究報告(愛知時計電機)** 第2卷 第6號 昭和13年12月
- 翼桁用ニッケル・クロム鋼管にカドミウム鍍金する際の水素脆性を抗張屈試驗より見たる結果に就て 渡邊亥參武 安田 正吉 (269)
- 輕合金用鎔接劑に就て 菊地源一郎 (303)
- 北光** 第46號 昭和13年12月20日
- 砂鐵の性状(1) 志村清次郎 (1)
- 同時燃焼法による混合瓦斯分析に就て 志村清次郎 (10)
- 高マンガン大洲田鋼の加熱による組織及性質の變化 三神 正苗 (15)
- 鹽基性電氣弧光爐の操業法に就て(續) 益田 義三 (43)
- 日立轉爐操業に於ける焰色反應及びマグネチック・コーテングの重要性…治2 藤本 國憲 (90)
- 航空研究所報告(東京帝大)** 第13卷 第171號 昭和13年11月
- 鐵・ニッケル・アルミニウム系に於ける新變態 $\alpha \rightarrow \alpha + \alpha'$ に就て 木内 修一
- 滿洲の技術** 第15卷 第117號 昭和13年12月
- 最近の鐵鋼界の状勢と技術に就て 日下 和治
- 電氣製鋼** 第14卷 第12號 昭和13年12月
- 金屬工業用電氣爐に就て 林 達夫
- 小型鑄鋼品製造に對するタイムスタデーの1例に就いて 吉田 正夫 遠藤 邦彦
- 燃料協會誌** 第195號 昭和13年12月
- 高壓高温度装置に於ける電氣熔接 黄金井晴正 (1251)
- コークス爐ガス中のベンゾールに關する二、三の考察 津田榮太郎 (1285)
- 日立評論** 第22卷 第1號 昭和14年1月
- 電氣熔接機及電動工具 (95)
- 特殊機械 (102)
- 鐵及鋼製品 (110)
- 大日本窯業協會雜誌** 第47集 第553號 昭和14年1月
- マグネシア耐火物の彈性率に就て(第12報) 近藤 清治 吉田 博 (12)
- マグネシア耐火物の彈性率に就て(第13報) 不燒成マグネシア耐火物の常温度及燒成中の機械的強度を増加する方法 近藤 清治 吉田 博 (15)
- 造兵彙報** 第17卷 第1號 昭和14年1月
- 輕合金並銅合金製造方式の研究(第1次) 熊谷 正昭 濱野 清 向井 彰 (1)
- 薄鋼板及アルミニウムの電弧熔接實用化の研究 金杉市兵衛 (15)
- 酸性電氣爐操業法に關する研究(第3次) 藪内周三郎 酒井桑三郎 (55)
- 工業雜誌** 第75卷 第937號 昭和14年1月
- 昭和13年の機械工業 朝倉 希一 (2)
- 昭和13年造船業の回顧 加藤 成一 (4)
- 昭和13年の纖維工業 渡邊 周 (6)
- 昭和13年の工作機械に關する回顧 五十嵐修藏 (8)
- 昭和13年に於ける本邦自動車工業 宮田 應義 (13)
- 昭和13年の規格統一事業概要 吉田 永助 (23)
- 鑄物の熔接に關する座談會(33)